T-0706120

組立・施工・取扱説明書

お客様保管用

壁付フラット

ポーチスカイルーフセット 共 通

このたびは、当社商品をご採用いただきまして、誠にありがとうございます。この商品を安全に正しく施工していただくため、この「組立・施工・取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。

安全のために必ずお守りください

ここに示した注意事項は安全に関する最も重要な内容です。人身事故や財産への損害を未然に防止するため、お守りいただく内容を説明しています。内容をよく理解して本文をお読みください。また、本説明書および当社カタログに記載されている内容に反する施工やご使用をされた場合、保証対象外となります。

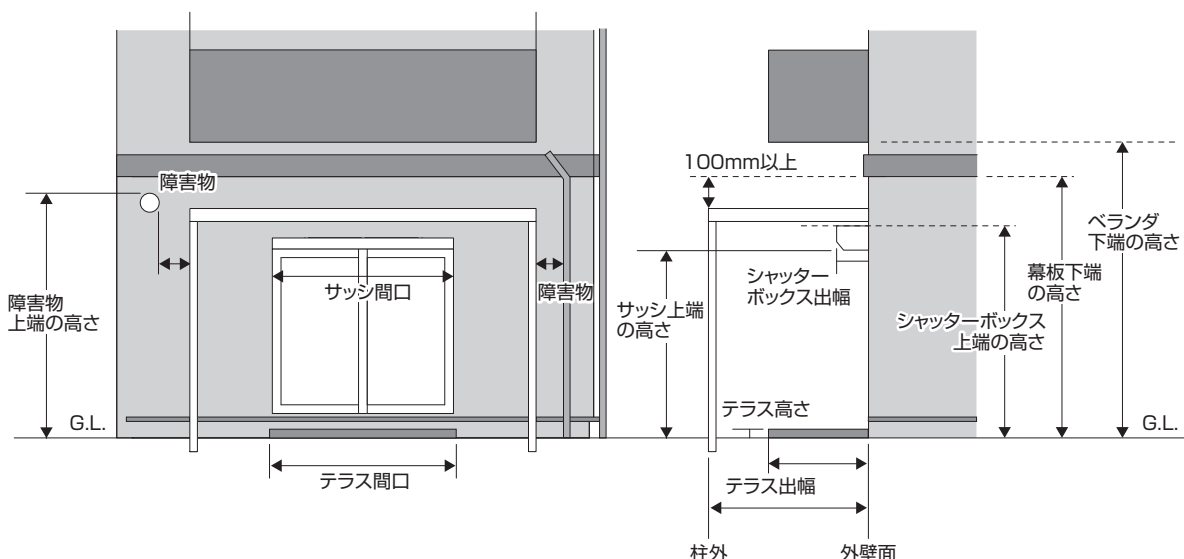
安全記号

警 告	●取り扱いを誤った場合、使用者が死亡もしくは重傷を負う可能性がある危険度が「高い」内容を示しています。

注 意	●取り扱いを誤った場合、使用者が中、軽傷を負う可能性がある内容、または物的損害の可能性があり危険度が「中、軽い」内容を示しています。

一般記号

ポイント	●組み立て、施工手順で、特に注意して作業を進める必要がある内容を示しています。 ●注意して守っていただかないと、組み立て、施工が困難、あるいは強度不足のため、施工後不具合が発生する可能性がある内容を示しています。

現場調査時のご注意

●商品ごとに必要な寸法は異なります。上の図を基に採寸してください。
●敷地境界を越えないようにご注意ください。
●建物の雨樋が障害となる場合は、現地対応が必要となります。
●建物側の梁上下に100mm以上のすき間を開けてください。
●建物に近づけて施工する場合、ポーチスカイルーフ本体梁材の上側に100mm以上のすき間を確保してください。

その他確認事項

○障害物(ブロック塀、樹木、雨樋、エアコン等)や撤去物はないですか?
○取り付けの際に電気、水道が使用できますか?
○基礎となる部分に障害物や埋設物(配水管やガス管、水道管などの埋設物)はないですか?

搬入時のご注意

●荷降ろしの際は、現地にて木の角材等をご用意いただき、商品の下に置いてキズがつかないようお願いします。
●柱と梁などの屋根部材は最初に使用しますので、作業手順および商品の配置を考えて荷降ろしをしてください。
●搬入や施工時の運搬は、カド打ちに注意してください。
●屋外で保管する場合は、必ず養生シートなどで覆ってください。

組立・施工上のご注意

●風の強い場所、積雪の多い地域や地盤の弱い場所での施工には、控え柱等の補強が必要です。
特に柱の固定を確実に行ってください。転倒など事故の原因となります。
●屋上やがけの上など、商品が落下した場合にケガをする可能性のある高所には設置しないでください。
●取扱説明書に表示している基礎部の埋め込み深さは一般的な場合です。
現場の地盤状態に合った基礎部の寸法(体積)にて施工し、安全を確保してください。
●施工時、コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)や、コンクリート用混和剤(凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など)で塩素系や強アルカリ系のものは、絶対使用しないでください。使用すると、金属部分が腐食し、破損、倒壊の可能性があり危険です。

●組み立て、施工場所の整理整頓、適切な安全確保を行ってください。
高所作業での転落、工具、部品の落下や倒壊の防止、暗所作業時の照度の確保などを必ず行ってください。
●工具、器具、保護具(作業服、保護帽、安全靴、安全帯、その他作業者身体の保護具)などは、安全機能を十分に確認し、正しく使用してください。また不具合のあるものは使用しないでください。
●大型商品は、安全に組み立てるため、施工は2人以上で行ってください。
●組み立て、施工は正しく行わないと危険です。組み立て、施工前に必ず取扱説明書をお読みください。
●必ず取扱説明書に従って正しく施工してください。正しい順序で施工されなかった場合には、商品の強度など性能が低下するほか、倒壊につながる場合があります。
●梱包明細表で必要な部材、部品がすべて揃っているか確かめてから、組み立ててください。
●設置場所に正しく施工でき、不具合なく使用することができることを確認してください。
●給湯、暖房機などの熱排気が商品で妨げられ建物内部にこもったり、適切な換気ができなくなるような場所には設置しないでください。
●給湯、暖房機などの排気熱が直接商品に当たると被膜の劣化、はく離につながります。
熱の影響のない場所に設置してください。
●通路など、通行の妨げになる場所には設置しないでください。
●給排水管などの地下埋設物に影響を与えないか位置を確認してから施工してください。
●防犯上、不審者が踏み台として使用し、侵入が容易になるような場所には設置しないでください。
●高台、強風地域、特にがけの上、屋上、風の通り道などへの設置は避けてください。
●風の強い場所では、商品の周囲に十分な空間を確保してください。
周囲を囲うと商品に予想以上の風圧がかかり、破損、倒壊の可能性があります。
●水はけの悪いと思われる場所には設置しないでください。
●常に水や温水に触れたり水没する場所、また温泉やそれに類する水質に触れたり水没したりする場所には設置しないでください。
●振動、衝撃のある場所には設置しないでください。商品の破損、倒壊につながります。
●大気中に強い酸やアルカリ成分が多く含まれる場所には設置しないでください。商品の性能が低下する可能性があります。
●この商品は、地上設置型商品ですので、それ以外の場所には設置しないでください。
●強風が屋根を吹き上げる恐れのある場所には設置しないでください。商品の破損や事故の原因になります。
●アルミ製品は、鉄や銅など(ステンレス以外)の異種金属と直接接触すると、腐食する可能性があります。
接触する場合は、ビニールテープを巻くか塗料を塗るなどの処理を行ってください。
●腐食成分(塩素イオンなど)を多く含んでいる輸入木材の併用は避けてください。
もし使用される場合は、必ずアルミと接触する部分の木材に塗装するなどの処理を行ってください。
●商品が腐食する可能性のある接着剤や溶剤などの化学薬品に、接することがないように注意してください。
●基礎は安全のため必要な強度を十分確保してください。
●土地の高低にかかわらず、柱の埋め込み深さを十分確保してください。

組立・施工上のご注意

●組み立て、施工時は、商品にキズがつかないように十分注意してください。
●組み立て、施工用のボルト、ビスは規定本数（当社指定純正品）を確実に締め付け、固定してください。
●商品にバリがある場合は取り除いてください。特に切り詰めなど現場加工の場合は必ず行ってください。
●組み立て、施工時に、雨水がたまらないように十分注意してください。
●商品の一点をハンマーで叩いたり、ハシゴをかけるなどして強い衝撃を与えますと
破損事故の原因になりますので、絶対しないでください。
●商品を異なる材質のものに固定すると温度差により多少伸縮する場合があります。
施工時に、商品に必ず大きめの穴をあけて固定してください。
●商品を異なる材質のものに固定すると温度差により多少伸縮する場合があります。
施工時に、商品に必ず大きめの穴をあけて固定してください。
●柱の水抜き穴は、モルタルなどで塞がないでください。
●組み立て、施工時、商品にコンクリート（またはモルタル）の抽出液が付着しないように注意してください。
抽出液は強アルカリ性のため、施工後シミ、ムラなどが発生し、外観不良の原因になります。
付着した場合は、速やかに水を含ませた布などでふき取ってください。
●コンクリートは製品に記載されている配合率や注意事項に従って使用してください。
養生期間（4～7日）は十分に確保し、養生期間中は重量物をのせたり、振動させたり、物を立てかけたりはしないでください。
●商品に雨水がたまらないように、適切な位置に水抜き穴をあけることをおすすめします。
●雨水等の浸入防止のために、必要な箇所には必ずコーキング材を充填してください。
●組み立て、施工終了後は、必ず商品が正しく組み立てられているか確認してください。
特にボルト、ビスなどにゆるみがないか確認してください。
●組み立て、施工終了後は、施工時の汚れをきれいに取り除いてください。
●施工後の残材は他の一般廃棄物と区別し、素材別に分けた上で専門業者に処理を委託してください。
●構造物、建築物の屋根などからの雪の落下を受けない位置に設置してください。
●積雪のある地域では、雪により商品が倒壊しても危険がない場所に設置してください。
●凍上する可能性のある寒冷地に設置する場合は、必ず凍上線の下まで基礎部を確保するように施工してください。
●寒冷地でご使用になる場合は、柱に水抜き穴をあけて、柱用の穴に柱を立ててから、モルタルを入れてください。
モルタルを入れてから柱を立てると、柱の内部に水がたまり、凍結破損の原因になることがあります。
●安全を確保するため、組み立て、施工は必ず専門の業者が行ってください。
●商品の改造は絶対にしないでください。商品の性能が落ち、強度不足による破損、倒壊の可能性があり危険です。
●誤った使用を避けるため、組み立て、施工終了後、必ず取扱説明書はお施主様にお渡しして、
取り扱いの注意、メンテナンスについて説明してください。

使用上のご注意

警 告

●アルミ製品は、高温になる場所では他の金属材料に比べて熱による変形が生じやすい材料です。
商品の近くで火気を使用しないでください。
●運動具やお子様の遊具、踏み台、ふとんや洗濯物を干す等、目的以外の使用は絶対にしないでください。

注 意

●商品の一点をハンマーで叩いたり、ハシゴをかけるなどして強い衝撃、荷重を与えると
破損、倒壊事故の原因になります。絶対にしないでください。
●無理な荷重をかけないでください。商品の上で飛んだり、跳ねたりしないでください。
ぶらさがったり、寄りかかったりしないでください。
●局部的に重い物をのせたり、立てかけたり、ぶらさげたりしないでください。ボールなど投げつけたりしないでください。
●人が乗ったり、体重をかけたりしないでください。
●商品の付近で農薬や殺虫剤などの薬剤を使用する場合は、表面に付着しないようにしてください。表面が変色する恐れがあります。
●ルーバーの開閉時は、体や衣服を挟まないように注意してください。
●ルーバーの回転する範囲内に障害物がないことを確認してください。
●安全性の高い材料を使用しておりますが健康を害する恐れがありますので、小さなお子様やペットがなめたり、
かじったりしないように注意してください。
●商品の切り口に切断時のバリが残っている場合や、現場加工にともないささくれが発生する場合があります。
手などにケガをしないように、取り扱いには十分注意してください。発見した場合は放置せず、施工店様に連絡してください。
●商品を改造したり、穴をあけたり、当社オプション品、付属品以外の取り付けは避けてください。
商品の性能が低下する可能性があり危険です。
●アルミ製品の表面にキズが付いたり、塗装はがれが生じると、商品の腐食や強度低下の原因になりますので、
取り扱いには十分注意してください。
●ご使用にならない場合も、月に一度はルーバーを稼働させてください。
●ゴミはこまめに取り除いてください。
●2カ月に一度は、ルーバー部分を水洗いしてください。
●強い雨の場合、雨水が浸入する可能性がありますので注意してください。
●積雪のある地域では、必要に応じて早期に除雪してください。
●積雪が20cmを超えないうちに雪をおろしてください。
●長くお使いいただくためには定期的なメンテナンスをおすすめします。
●安全のため、定期的に接合部のボルト、ナット、ビス等にゆるみがないか確認して使用してください。
ゆるみがあれば締め直しを行ってください。お施主様でできない場合は施工店様に依頼し必ず直してください。
●商品が破損したり、グラつく場合は、すぐに施工店様に連絡してください。
破損したままで使用していると事故の原因となり危険です。
●ルーバーを閉じた状態でも、豪雨などの悪天候時には商品内部に雨水が入り込むことがあります。
●地域、気候、使用状況により屋根材に結露が発生することがあります。
結露水が落ちる場合がありますので、その付近には電気製品などの濡れては困る物を置かないでください。

メンテナンスのご注意

◆汚れの程度と掃除方法

内　容	用　具	方　法
軽い汚れの場合	柔らかい布、スポンジ、水	柔らかい布、スポンジで水ぶきした後、からぶきしてください。
ひどい汚れの場合	柔らかい布、中性洗剤	中性洗剤を薄めた液で汚れを落とし、洗剤が残らないように水洗いしてください。その後、からぶきしてください。

◆お手入れのご注意

●お手入れには布やスポンジなどの柔らかいものを使用してください。
●金属ブラシ、金ベラ、スチールウール、目のあらい紙ヤスリなどは使用しないでください。
●小石、砂などが付着したままこすると、アルミ表面にキズが付きます。あらかじめ取り除いてください。
●アルコール、ベンジン、アセトンなどの有機溶剤や石油類などは使用しないでください。
●小さなキズでも早めに補修されることをおすすめします。水に濡れたときはからぶきしてください。
●安全のため、定期的にガタツキがないか確認してご使用ください。
●工業地帯や海岸の近くなどでは、状況によりお手入れの回数を増やしてください。
●定期的なお手入れにより、アルミ製品をいつまでも美しく保つことができます。

●お手入れ回数の目安

海岸地帯	工業地帯	市街地	田園地帯
年1～4回	年1～3回	年0.5～2回	年0.5～1回

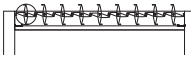
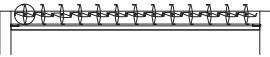
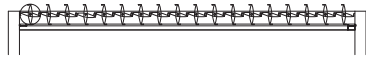
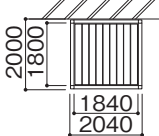
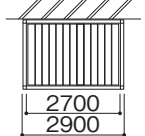
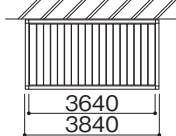
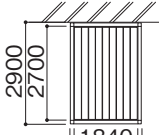
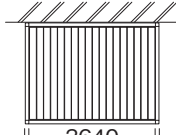
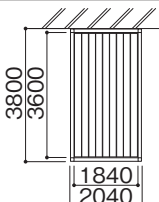
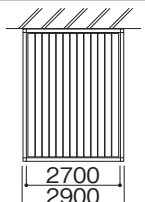
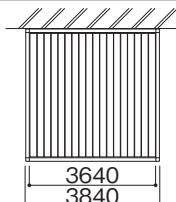
施工に必要な工具・資材

●電動ドリル、キリ
●充電式ドライバー、電動ドライバー、プラスドライバー、マイナスドライバー
●巻き尺、水平器、下げ振り、カッター、ペンチ、ゴムハンマー
●スチール用高速カッター、スチール用ドリル、切断機または金切りのこ
●コーキング材、カートリッジ用ガン、ヘラ
●その他必要に応じて工具、資材を用意してください。

穴あけ・コーキング処理について

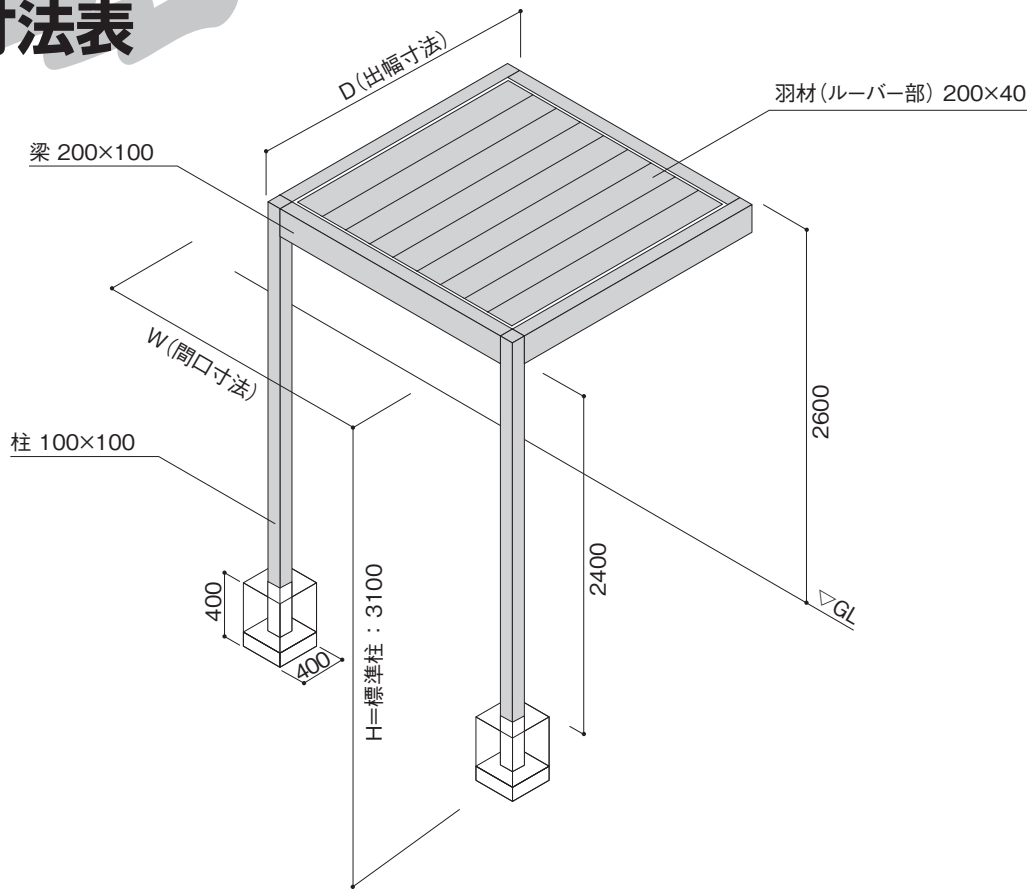
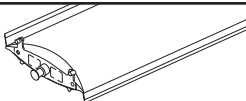
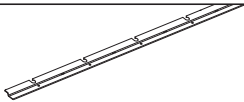
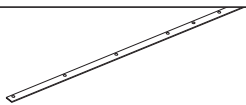
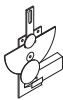
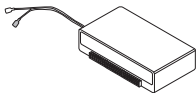
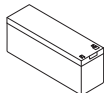
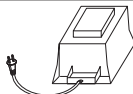
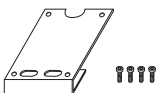
穴あけ加工

左記のマークは現地穴あけ箇所をあらわしています。
説明に従って穴をあけてください。

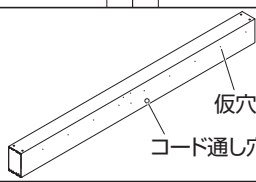
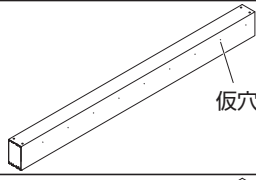
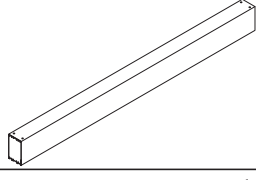
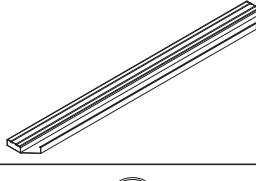
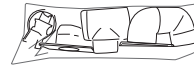
左記のマークはコーキング箇所をあらわしています。
説明に従ってコーキングしてください。

●コーキングは指示箇所すべてを確実に行ってください。
●コーキングする面に付着しているサビ、ほこり、油分、水分などは、きれいに除去してください。
●躯体にあけた下穴は、十分にコーキング材を充填した後、ビス留めしてください。
●コーキング材を十分に深部まで押し込み、表面をヘラなどで滑らかに仕上げてください。

廃棄について

ご不要になった商品、また現場で発生しました残材等につきましては、各地域の条例等に従って正しく処分してください。

規格寸法表

間口(W) ＼ 出幅(D)	1間(1840mm)	1.5間(2700mm)	2間(3640mm)
	ルーバーの枚数：9枚	ルーバーの枚数：13枚	ルーバーの枚数：18枚
6尺 (1800mm)	2000 / 1800 1840 / 2040 基本型（W2040）	2700 / 2900 基本型（W2900）	3640 / 3840 基本型（W3840）
9尺 (2700mm)	2900 / 2700 1840 / 2040 基本型（W2040）	2700 / 2900 基本型（W2900）	3640 / 3840 基本型（W3840）
12尺 (3600mm)	3800 / 3600 1840 / 2040 基本型（W2040）	2700 / 2900 基本型（W2900）	3640 / 3840 基本型（W3840）

部品の確認

※下表をご参照のうえ、各部材、部品の有無を確認してください
※梱包内容は購入時に選択された商品により、異なります

名称	姿図	数量								
		1間(1,840mm)			1.5間(2,740mm)			2間(3,640mm)		
		6尺 (1,800mm)	9尺 (2,700mm)	12尺 (3,600mm)	6尺 (1,800mm)	9尺 (2,700mm)	12尺 (3,600mm)	6尺 (1,800mm)	9尺 (2,700mm)	12尺 (3,600mm)
羽		9			13			18		
ピボット		2			4			4		
リンクバー		1			2			2		
モーター		1								
コントローラー		1								
バッテリー		1								
トランス		1								
レインセンサー	(5m)	1								
レインセンサー取付台		1								
リモコン		1								
スピードナット		10(1)			14(1)			19(1)		
ドリルビス 4×19		23			32			42		
支柱取付金具		8								
コード	(10m)	1								
グロメット		4								

※( )内は予備数

部品の確認

※下表をご参照のうえ、各部材、部品の有無を確認してください
※梱包内容は購入時に選択された商品により、異なります

名称	姿図	数量								
		1間(1,840mm)			1.5間(2,740mm)			2間(3,640mm)		
		6尺(1,800mm)	9尺(2,700mm)	12尺(3,600mm)	6尺(1,800mm)	9尺(2,700mm)	12尺(3,600mm)	6尺(1,800mm)	9尺(2,700mm)	12尺(3,600mm)
LEDランプ	(5m)	1								
コントロールボックス		1								
柱		2								
梁 間口用 上部 モーターあり	仮穴 コード通し穴	1								
		仮穴の数								
		9カ所			13カ所			18カ所		
梁 間口用 上部 モーターなし	仮穴	1								
		仮穴の数								
		9カ所			13カ所			18カ所		
梁 出幅用		2								
梁 下部（樋部分）		4 出幅用：2本、間口用：2本（うち1本縦樋用穴あり）								
樋パイプ		2								
ドレンセット		2								
コーチボルト		8								

※(　)内は予備数

■別売部品 梱包明細

◆ ルーバー用キャップ

名称	姿図	数量
ルーバー用キャップ		1

※ルーバーを現場カットした際に、カットした枚数分、必要です

施工手順

❶❷ ピボットとリンクバーを切断します　P.10、11へ

ピボットを切断します。リンクバーに、羽連結用の穴あけ加工と切断を行います。

❸ ピボットを梁間口用に取り付けます　P.12へ

梁間口用 上部にピボットを固定します。

❹ レインセンサーを取り付けます　P.13へ

梁、または見通しのよい場所にレインセンサーを取り付けます。

❺ 梁間口用および梁出幅用を組み立てます　P.15へ

梁間口用 上部に、梁 下部（樋部分）を取り付けます。同様に、梁出幅用も組み立てます。

❻ モーターを取り付けます　P.15へ

モーターと梁間口用 上部 モーターありを固定します。

❼ 支柱取付金具を壁面に固定します　P.16へ

支柱取付金具を壁面に固定します

❽ 梁と柱を固定します　P.17へ

コの字型に組み立てた梁出幅用および間口用と、門型に組み上げた梁間口用と柱を連結します。

❾ 壁面に梁を固定し、柱を仮押さえします　P.18へ

壁面に取り付けた支柱取付金具に、梁出幅用を取り付けます。基礎を掘り、柱を仮押さえします。

❿⓫ 羽を取り付けます　P.21、22へ

羽をピボットに取り付けます。モーターとリンクバーを固定します。

⓬ コントロールボックスを設置します　P.23、24へ

コントロールボックスにコントローラー、トランス、バッテリーを収納し、取り付けます。

⓭⓮ コードを接続し、電源を入れます　P.24へ

コントローラーにモーター、レインセンサー、LEDランプのコードを接続し、電源を入れます。

⓯⓰ 縦樋を取り付け、基礎に打設します　P.24へ

樋パイプ、ドレンセットを組み立て、柱に縦樋を取り付けます。基礎にモルタルを流し込み固定します。

組立・施工

❶ ピボットを切断します

ピボットを下記の表およびイラストを参照に、切断します。
※鉄用高速カッター、鉄用ドリルをご用意ください。

⚠ ご注意

○**モーターあり**に取り付ける**ピボット**には、左側、右側があります。左右を間違えないように取り付けてください。
○取り付けが終わったら、梁を向かい合わせに仮置きし、羽取付部が同じ位置にあることを確認してください。

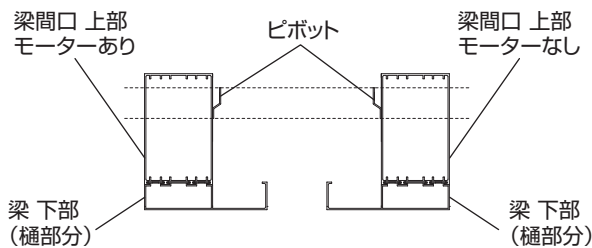
⚠ ご注意

ピボットは切断し、**梁間口用 上部 モーターあり**および**モーターなし**それぞれに取り付けます。取付方向や部品の上下を確認して、切断してください。

■1間

(mm)

	左側	右側
梁間口用 上部 **モーターあり**	760	960
梁間口用 上部 **モーターなし**	960	1760

モーターあり分(ピボット1本)

モーターなし分(ピボット1本)

■1.5間

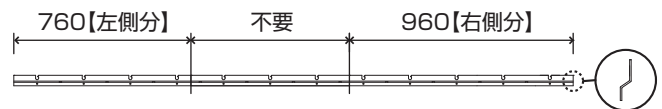
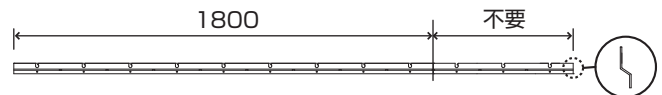
(mm)

	左側	右側
梁間口用 上部 **モーターあり**	1160	1360
梁間口用 上部 **モーターなし**	1400	1200

モーターあり分(ピボット2本)

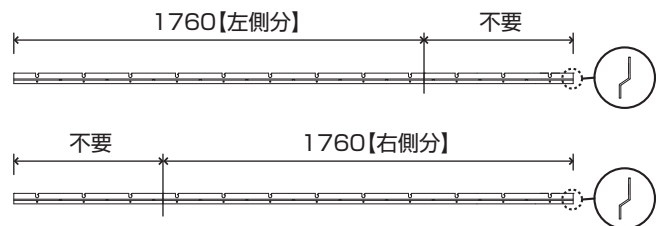
モーターなし分(ピボット2本)

1400【左側分】 不要

1200【右側分】 不要

■2間

(mm)

	左側、右側
梁間口用 上部 **モーターあり**	1760
梁間口用 上部 **モーターなし**	1800

モーターあり分(ピボット2本)

モーターなし分(ピボット2本)

組立・施工

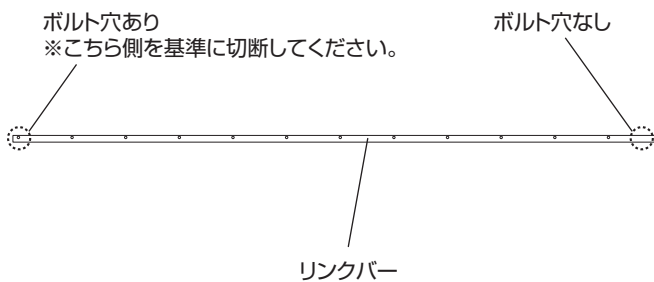
❷ リンクバーを切断し、羽連結用の穴をあけます

リンクバーを右記の表およびイラストを参照し、羽連結用の穴あけ加工と切断を行います。

ご注意

◯**リンクバー**は切断し、**羽**の左側、右側に取り付けます。
取付方向や部品の上下を確認して、切断してください。
◯切断の際は、下図のように、先端にボルト穴がある側を基準に切断してください。

ボルト穴あり
※こちら側を基準に切断してください。

ボルト穴なし

リンクバー

■リンクバー 切断寸法

	1間	1.5間	2間
羽 **左側分**(mm)	1640	1840	2240
羽 **右側分**(mm)		840	1440

■リンクバー 穴あけ位置

	1間	1.5間	2間
羽 **左側分**(mm)	720	1120	1720

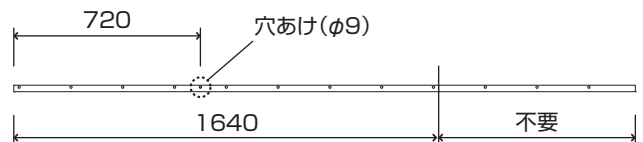
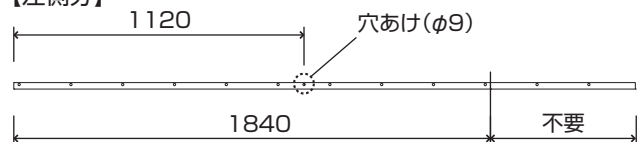
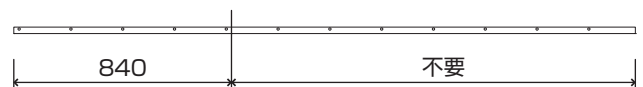
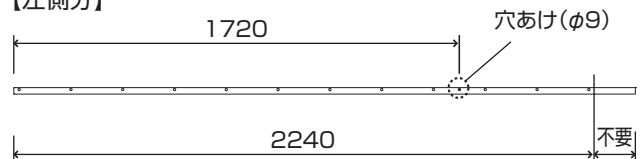
※左側分のみに穴あけ

1間

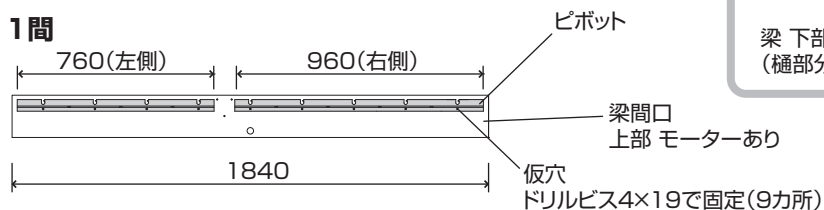
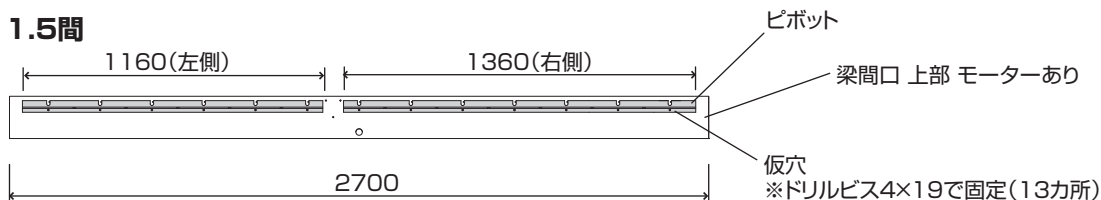
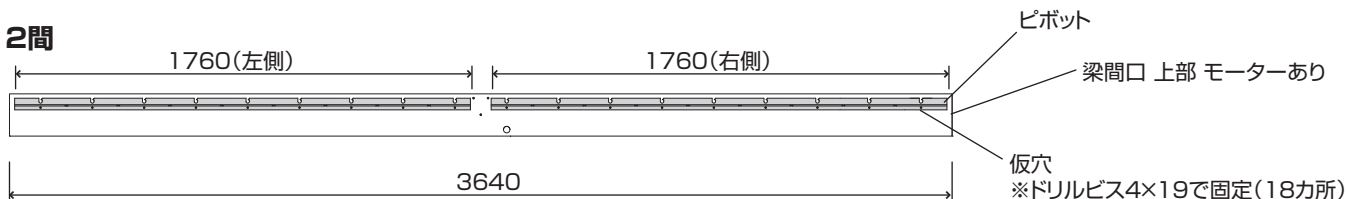
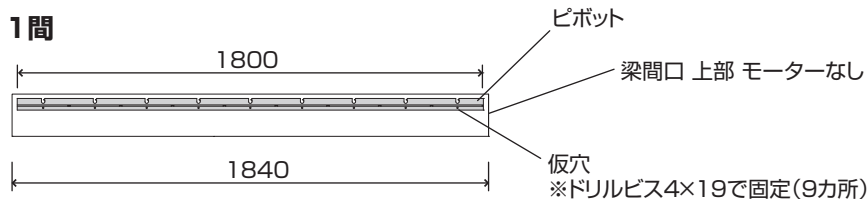
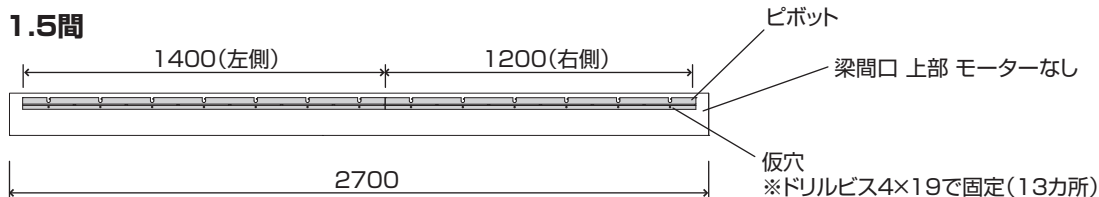
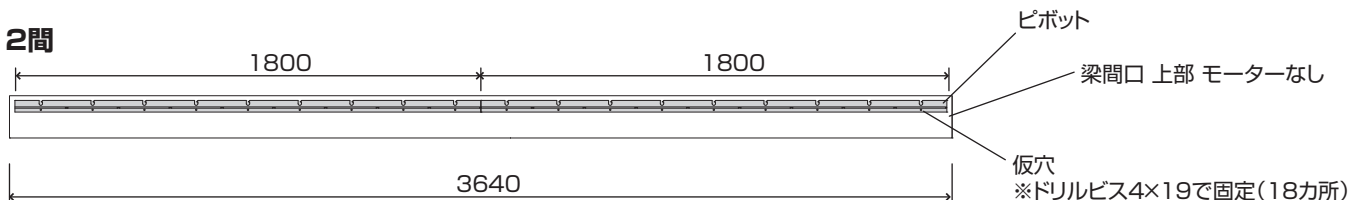
1.5間

【左側分】

【右側分】

2間

組立・施工

❸ ピボットを梁間口用に取り付けます

梁間口用 上部 モーターありおよび**モーターなし**と、❶で切断した**ピボット**の仮穴を合わせ、**ドリルビス4×19**で固定します。

⚠ ご注意

○**モーターあり**に取り付ける**ピボット**には、左側、右側があります。左右を間違えないように取り付けてください。

○取り付けが終わったら、梁を向かい合わせに仮置きし、羽取付部が同じ位置にあることを確認してください。

梁間口 上部
モーターあり
ピボット
梁間口 上部
モーターなし
梁 下部
（樋部分）
梁 下部
（樋部分）

■「梁間口 上部 モーターあり」への取り付け

1間

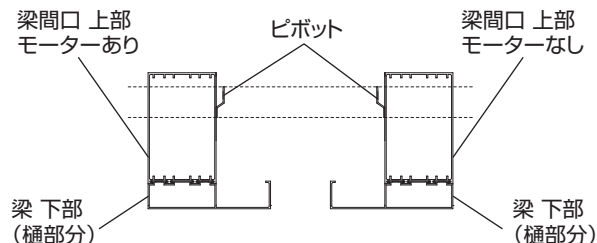
760（左側）
960（右側）
ピボット
梁間口
上部 モーターあり
1840
仮穴
ドリルビス4×19で固定（9カ所）

1.5間

1160（左側）
1360（右側）
ピボット
梁間口 上部 モーターあり
2700
仮穴
※ドリルビス4×19で固定（13カ所）

2間

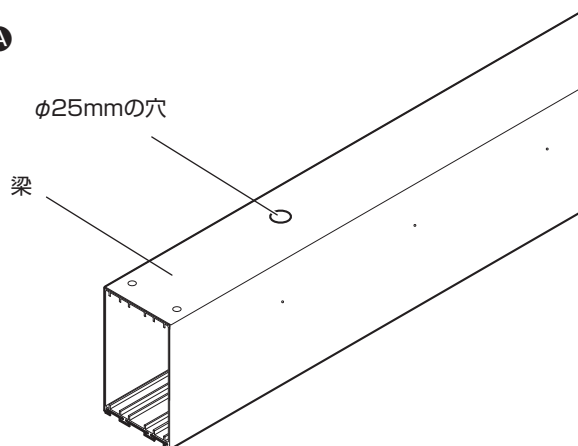
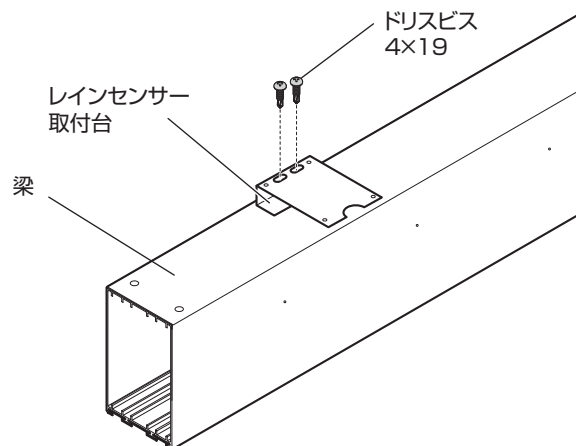
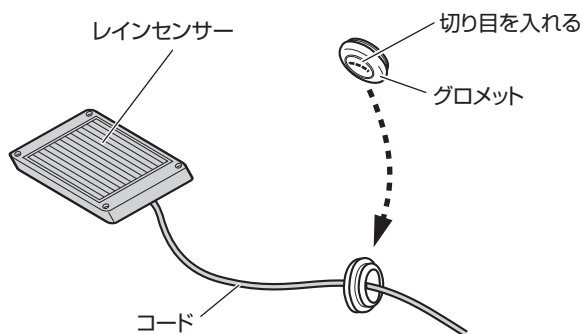
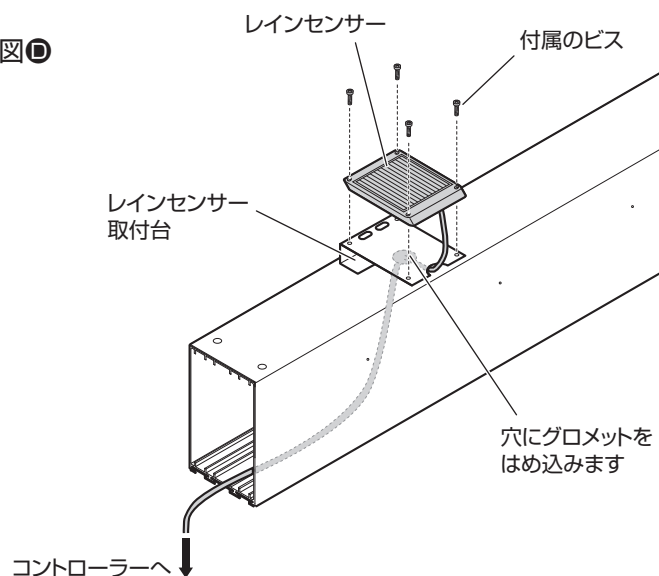
1760（左側）
1760（右側）
ピボット
梁間口 上部 モーターあり
3640
仮穴
※ドリルビス4×19で固定（18カ所）

■「梁間口 上部 モーターなし」への取り付け

組立・施工

❹ レインセンサーを設置します

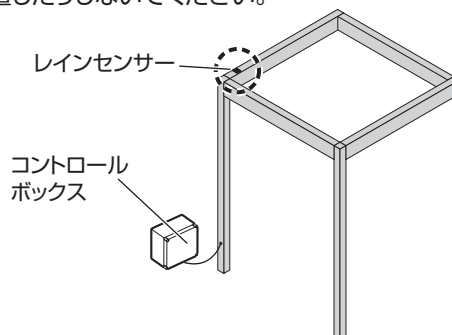
■梁に取り付ける場合

①**レインセンサー**を取り付ける位置を決めます。
（**コントロールボックス**に届くか確認してください）
②**レインセンサー**を取り付ける位置にφ25mmの穴（コードを通すため）をあけます。（計1カ所）【図Ⓐ】
③**レインセンサー取付台**を**梁**に**ドリルビス 4×19**で固定します。（計2カ所）【図Ⓑ】
④**レインセンサー**のコードに、**グロメット**を通します。【図Ⓒ】
⑤**レインセンサー**を**レインセンサー取付台**に**付属のビス**で固定します。（計4カ所）【図Ⓓ】
⑥**レインセンサー**のコードをのばし、**梁**の中を通して、**コントローラー**に接続します。（P.22参照）

⚠ ご注意

○**レインセンサー**は、**コントロールボックス**から5m以内に取り付けてください。
○センサーに樹木がかかったり、見通しの悪い場所に設置したりしないでください。

図Ⓐ

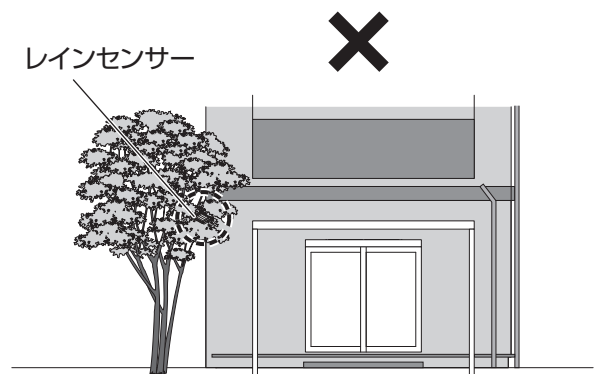
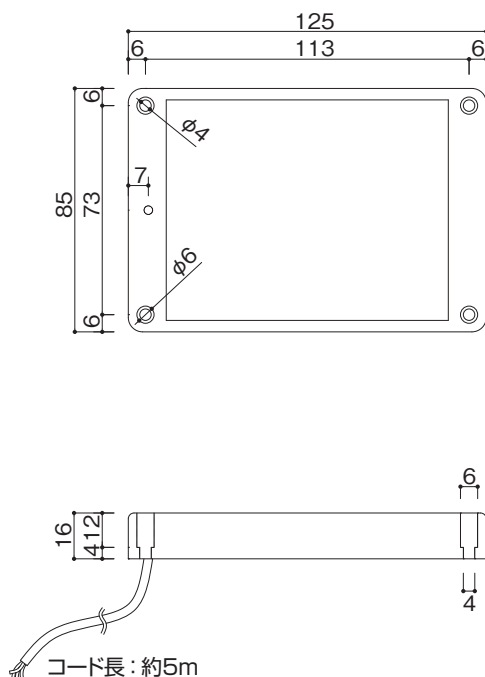
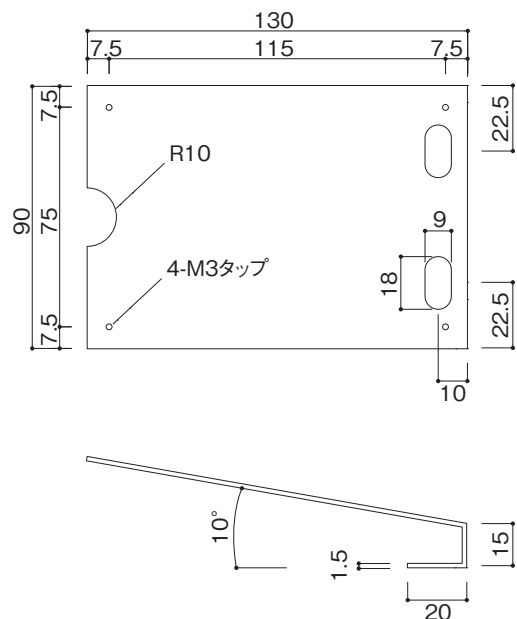
図Ⓑ

図Ⓓ

組立・施工

■梁以外に取り付ける場合

①**レインセンサー**を取り付ける位置を決め、設置します。
（**コントロールボックス**に届くか確認してください）
②**レインセンサー**のコードをのばし、**コントローラー**に接続します。（P.24参照）

ご注意

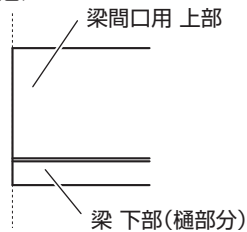
○**レインセンサー**は、**コントロールボックス**から届く範囲に設置してください。（コード長：5m）
○樹木など**レインセンサー**の妨げになるようなものがない場所に設置してください。
○**レインセンサー**を見通せる場所に設置してください。
○交換作業のできる場所に設置してください。

レインセンサー 詳細図

レインセンサー取付台 詳細図

組立・施工

❺ 梁間口用および梁出幅用を組み立てます

梁間口用 上部 モーターありおよび**モーターなし**に、**梁 下部（樋部分）**を取り付けます。同様に、**梁出幅用**も組み立てます。

ご注意

梁間口用 上部と**梁 下部（樋部分）**の端同士をぴったり揃えてください。

※梁間口用 上部 **モーターあり**には、梁 下部（**縦樋用穴なし**）
梁間口用 上部 **モーターなし**には、梁 下部（**縦樋用穴あり**）
を取り付けます。

❻ モーターを取り付けます

①**コントロールボックス**の取付位置を決めます。**コード**を**コントロールボックス**取付位置に近い側の梁小口から出てくるように通します。【図Ⓔ】

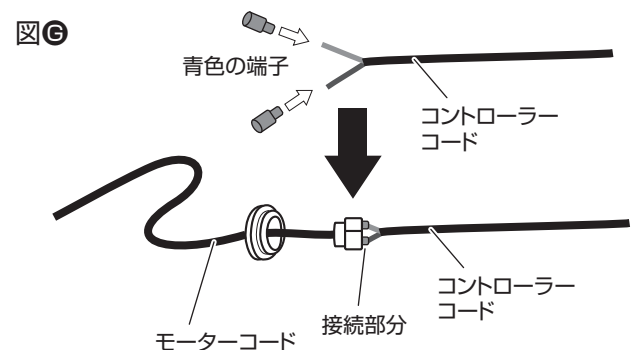
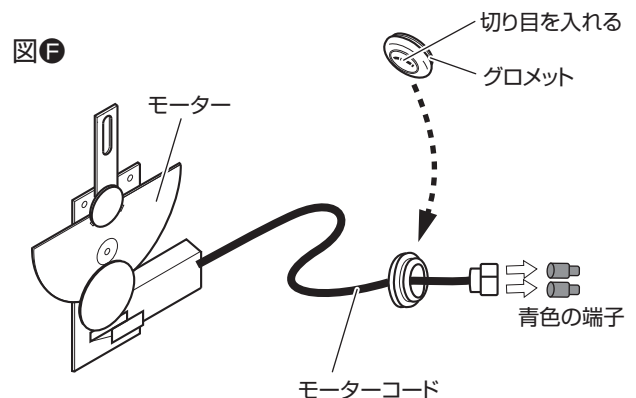
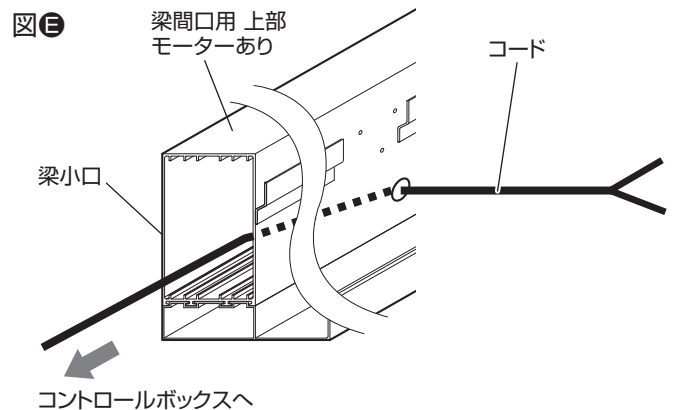
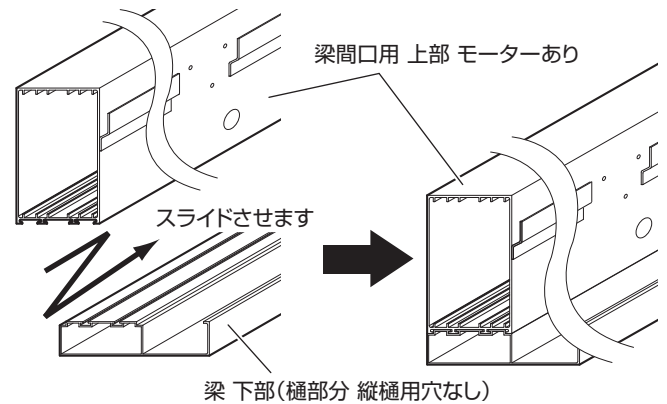
図Ⓔ

②**モーター**コードに付属している青色の端子を外します。**グロメット**に切り目を入れ、右図を参照し、**モーター**の端子部に通します。【図Ⓕ】

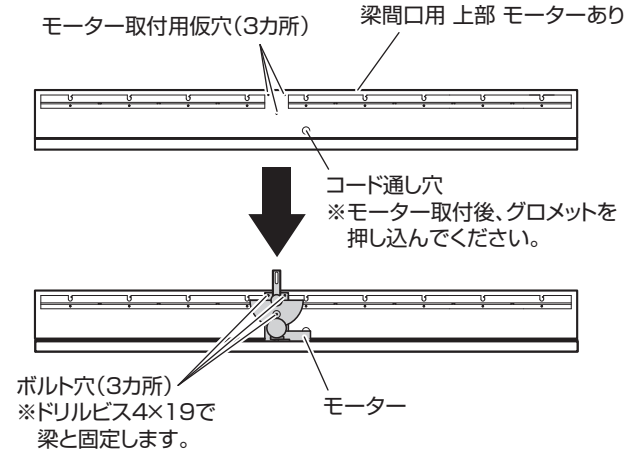
図Ⓕ

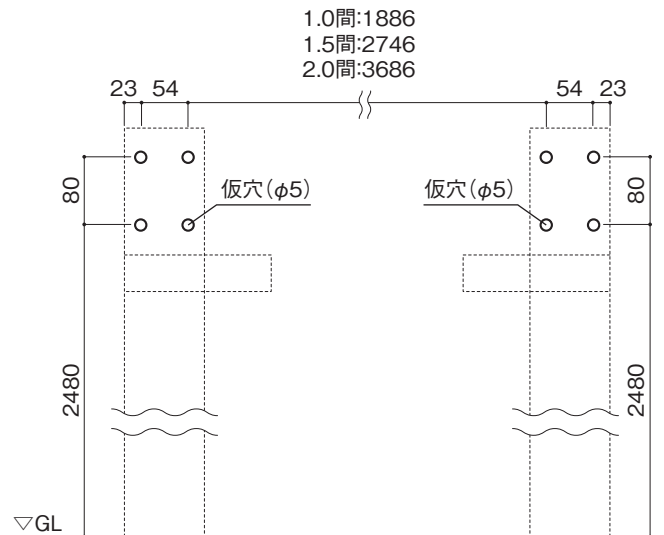
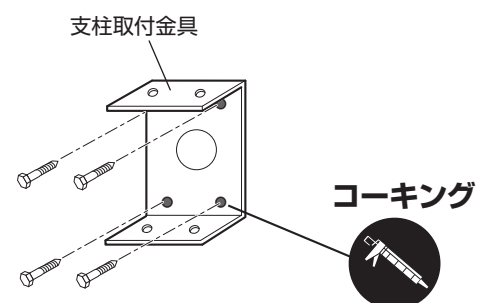
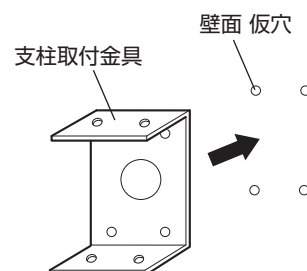
③コントロールボックス側の**コード**先端に、②で外した青色の端子を取り付けます。モーターコードの先端に再び青色の端子を取り付けます。【図Ⓖ】

④**コード**と**モーター**の端子部の接続部分が抜けないように、ビニールテープを巻き、固定します。

図Ⓖ

組立・施工

⑤**モーター**のボルト穴と**梁間口用 上部 モーターあり**のモーター取付用仮穴を合わせ、**ドリルビス4×19**で固定します。（計3カ所）【図Ⓗ】
⑥**グロメット**を穴に押し込み、固定します。

図Ⓗ

❼ 支柱取付金具を壁面に固定します

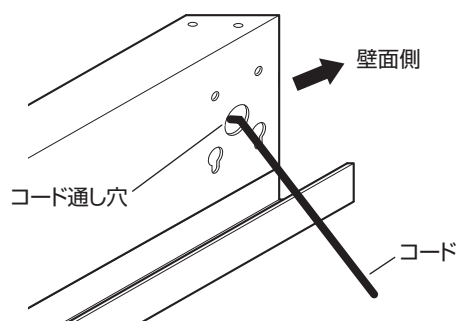
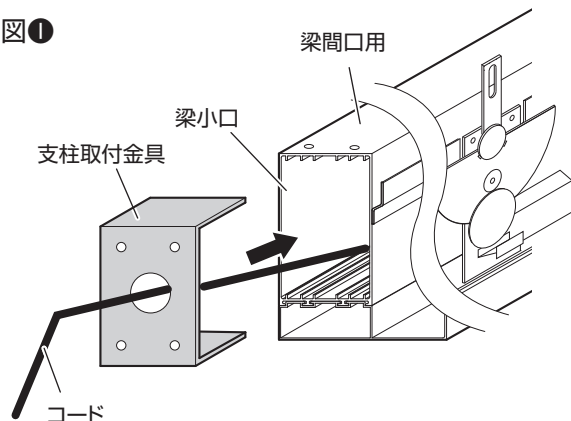
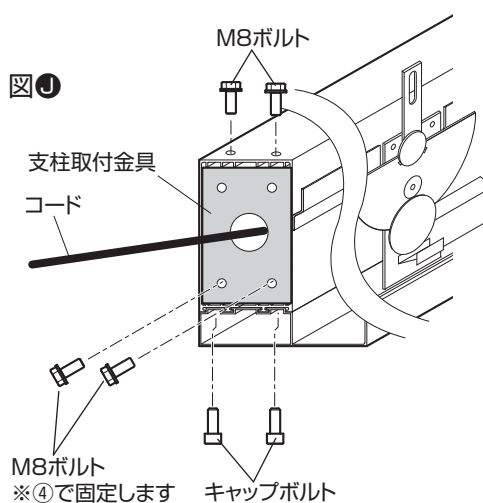
①壁面に仮穴（φ5）をあけます。（計8カ所）
※梁の取り付け位置になります。両サイドに仮穴が必要です。

②壁面に開けた仮穴と**支柱取付金具**のボルト穴を合わせ、コーキングを施します。
③**支柱取付金具**を**コーチボルト**で固定します。（金具1個につき4カ所、計8カ所）

組立・施工

❽ 梁と柱を固定します

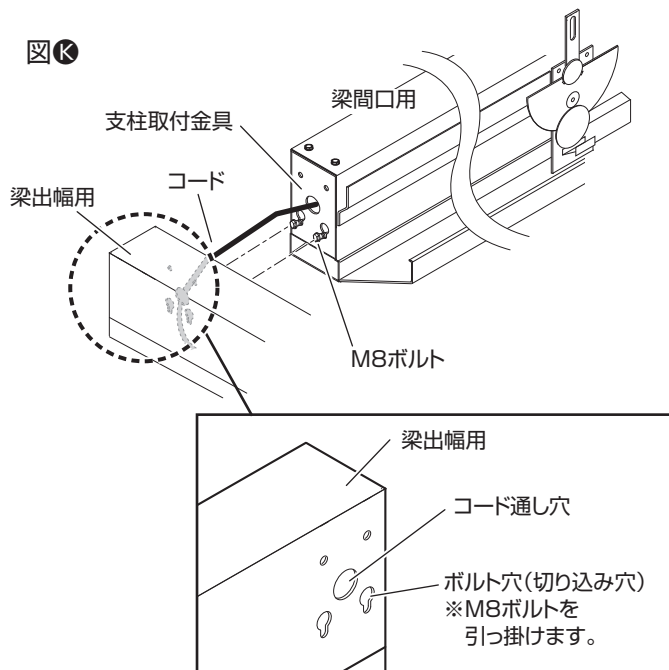
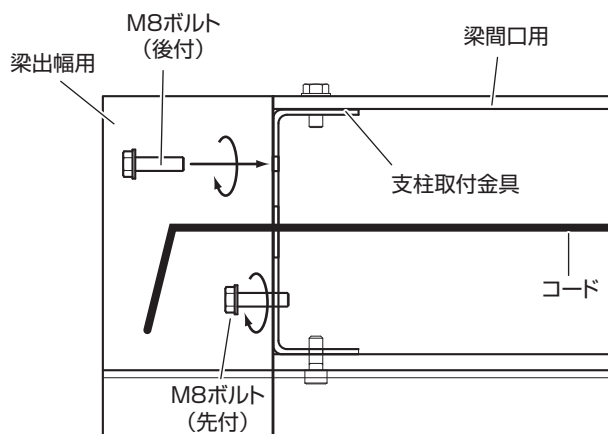
①**梁出幅用**のコード通し穴に**コード**を通します。

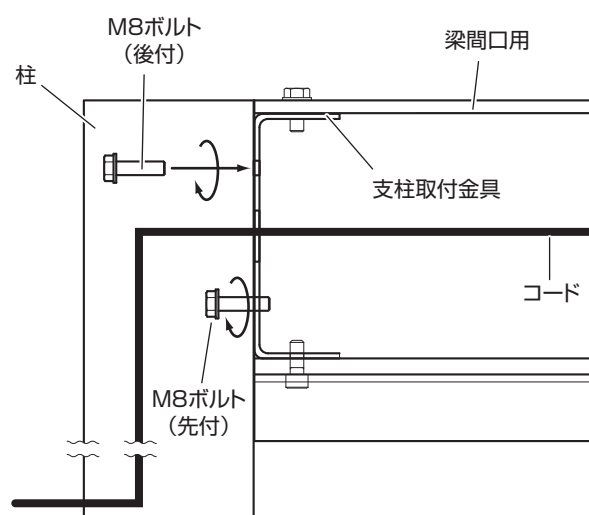
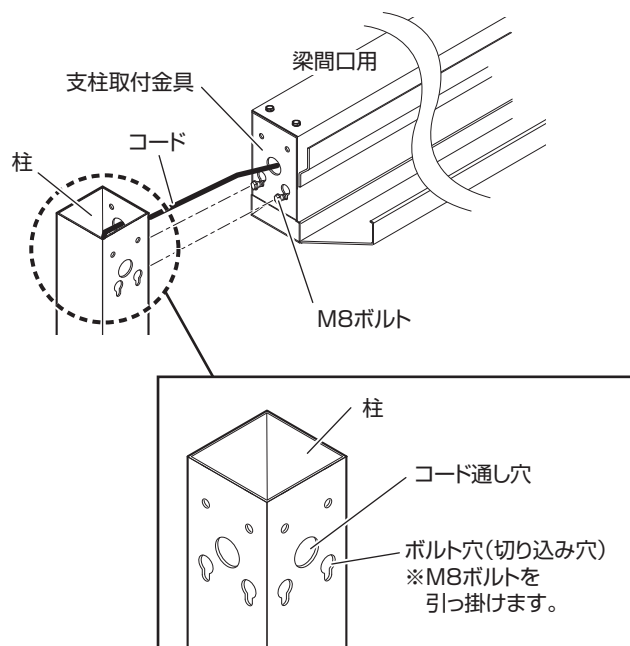
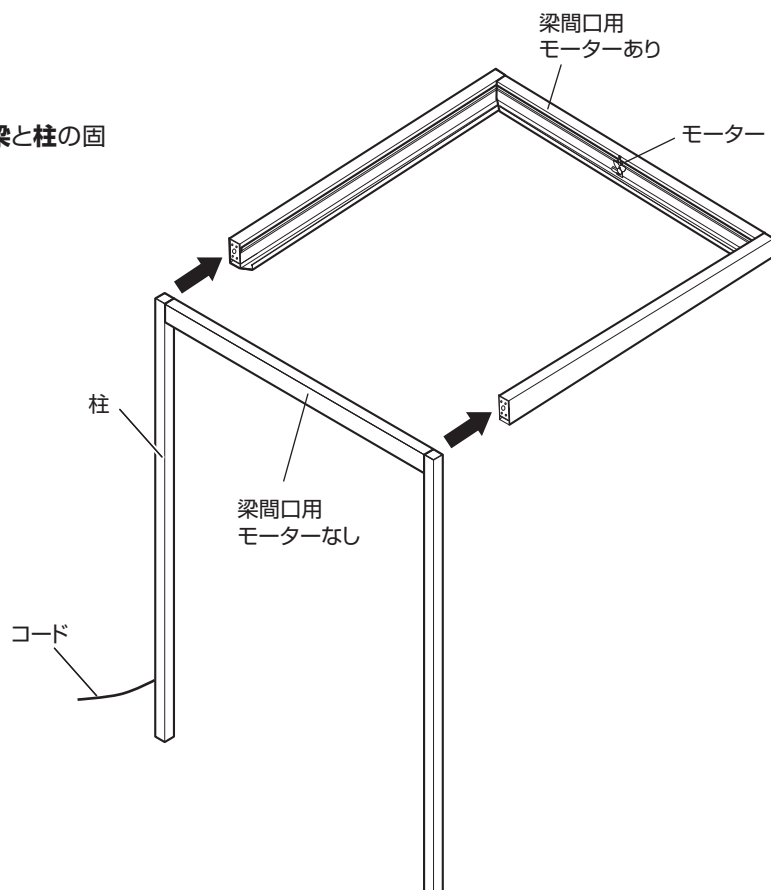
②**梁間口用 上部 モーターあり**および**モーターなし**の梁小口に、**支柱取付金具**を取り付けます。【図❶】
※**梁出幅用**からの**コード**は、**支柱取付金具**の中央の穴に通します。
③**梁間口用**（2カ所）、**支柱取付金具**（2カ所）を**M8ボルト**で、**梁間口用**（2カ所）を**キャップボルト**で固定します。【図❶】

図❶

図❶

④**支柱取付金具**に取り付けた**M8ボルト**を**柱**の切り込み穴へ引っ掛け、**梁出幅用**の中から**M8ボルト**を締めます。【図Ⓚ】
支柱取付金具のボルト穴に**M8ボルト**を差し込み、同様に**梁出幅用**の中から固定します。【図Ⓛ】

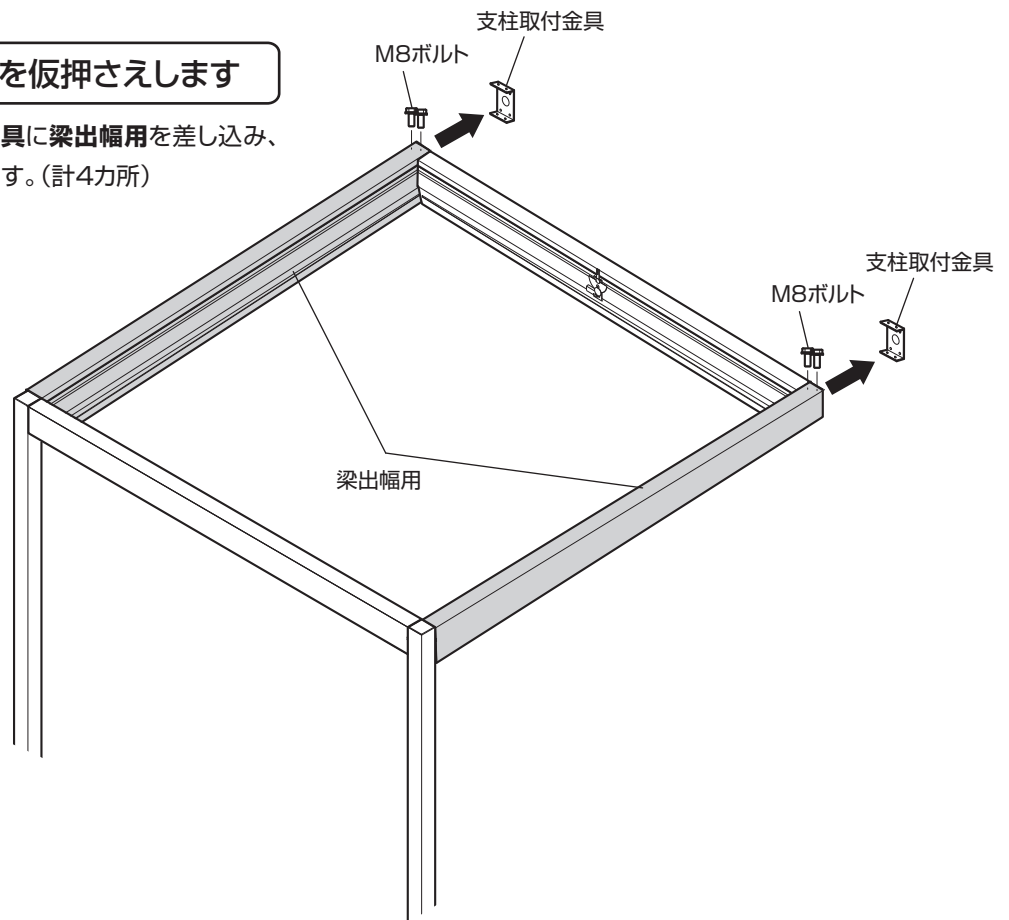
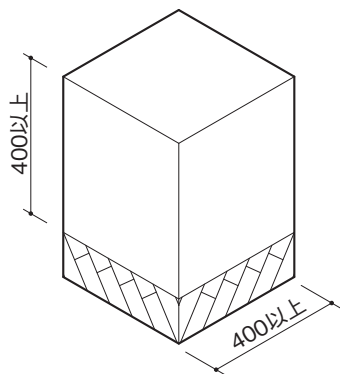
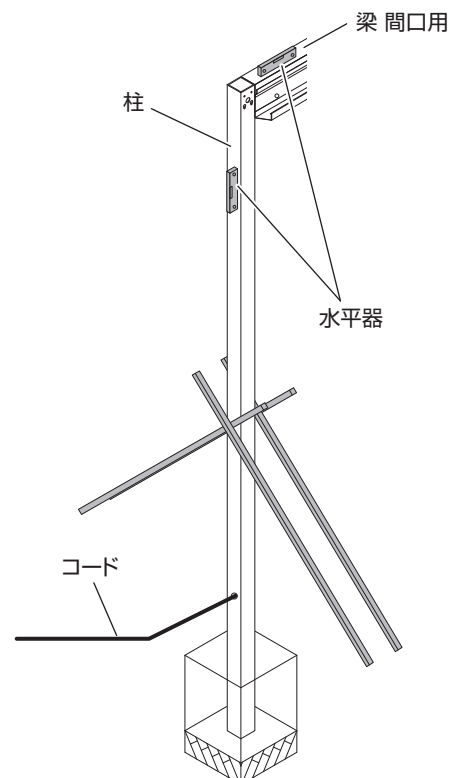
図Ⓚ

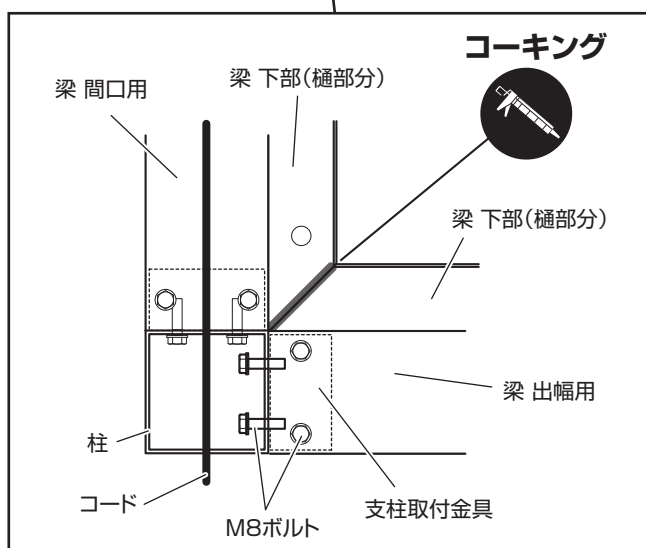
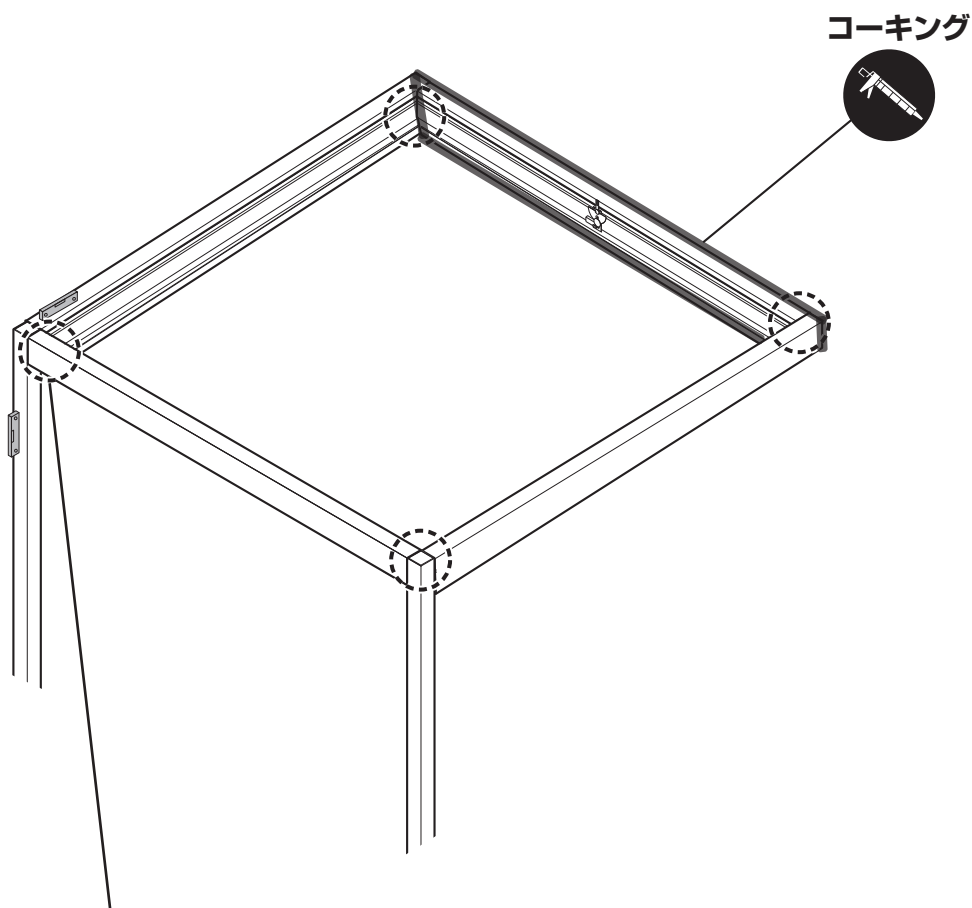
図Ⓛ

組立・施工

⑤**梁間口用 上部 モーターなし**と**柱**を固定します。**支柱取付金具**に取り付けた**M8ボルト**を**柱**の切り込み穴へ引っ掛け、**柱**の中から**M8ボルト**を締めます。**支柱取付金具**のボルト穴に**M8ボルト**を差し込み、同様に柱の中から固定します。

⑥**梁間口用**と、**梁出幅用**、**柱**を固定します。上記の**梁**と**柱**の固定と同じ要領で組み立てます。
※あらかじめ柱にコードを通すための穴をあけ、
コードを出します。

組立・施工

❾ 壁面に梁を固定し、柱を仮押さえします

①❼で壁面に固定した**支柱取付金具**に**梁出幅用**を差し込み、
梁上部から**M8ボルト**で固定します。（計4カ所）

支柱取付金具
M8ボルト
支柱取付金具
M8ボルト
梁出幅用

②規格寸法表（P.6）を参照し、
柱位置に合わせて基礎を掘ります。

③柱梁を立てます。
必ず、仮押さえをし、柱からコードを出してください。

組立・施工

③壁面と梁の接地部と、柱角部樋部分
にコーキングを施します。

ご注意

○フレームが自立するようになりますが、基礎打設が完了するまで、仮押さえを外さないでください。
○各柱の対角が等しいことを確認し、間口および出幅方向の梁が水平であることを確認してください。

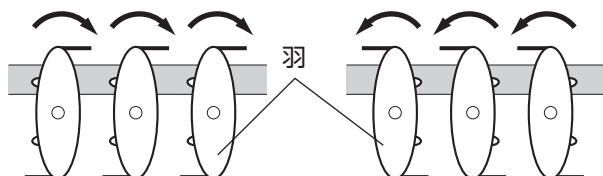
組立・施工

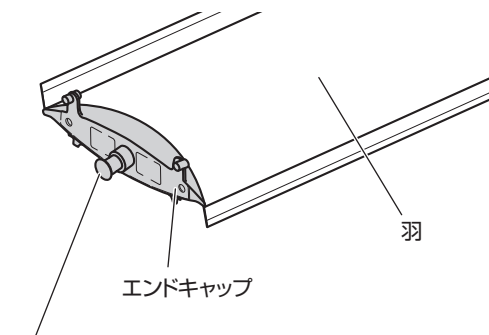
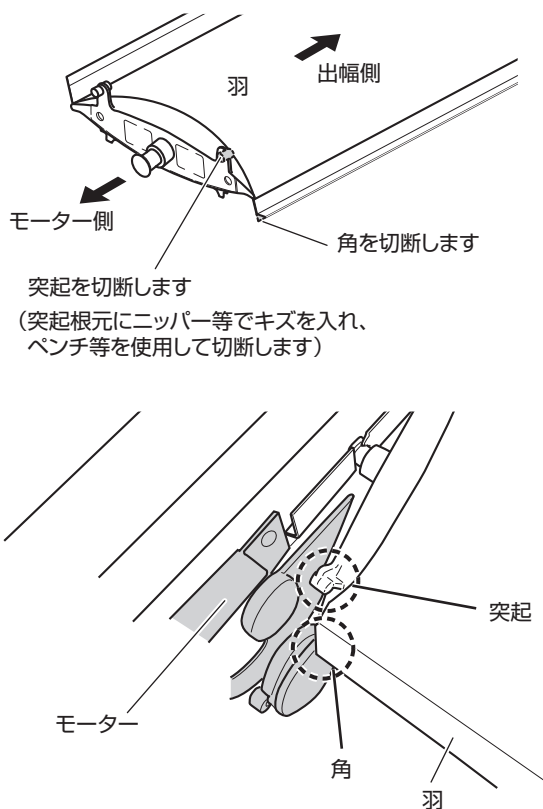
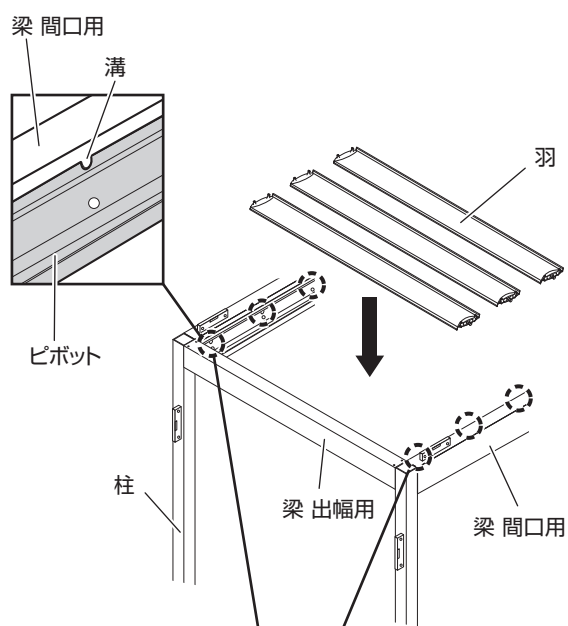
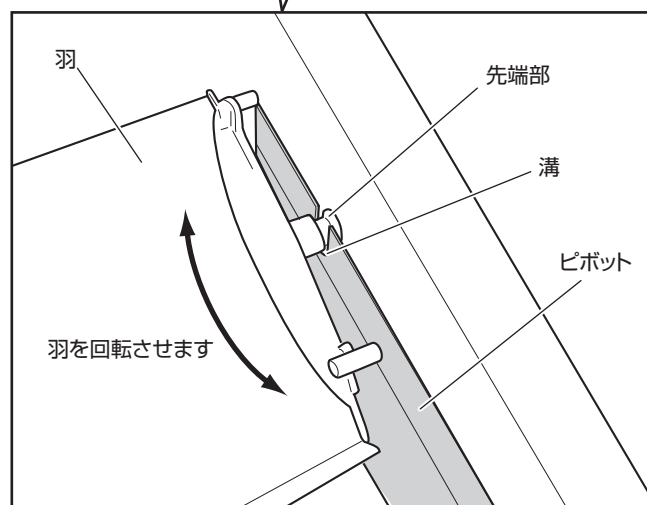
⑩ 羽を取り付けます

羽先端部を、❸で**梁間口用**に取り付けた**ピボット**に取り付けます。このとき、**羽**を回転させることで、**ピボット**に接続されます。
※必ず、**羽**すべてを同じ方向になるように、**ピボット**に取り付けてください。

ポイント

羽を揃える方向によって、開閉方向が変わります。お好みの稼働方向に**羽**を揃えてください。

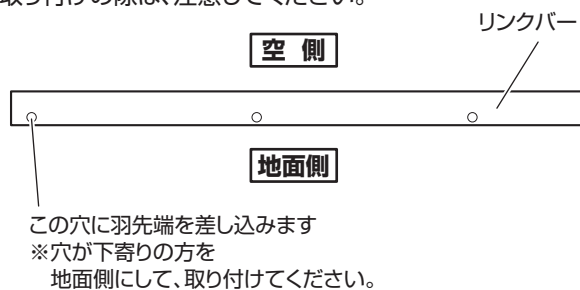
※矢印の方向に羽が動きます。

ご注意

羽が**モーター**に引っかかるため、**モーター**に接する**羽**の角と突起部分を切断してください。

組立・施工

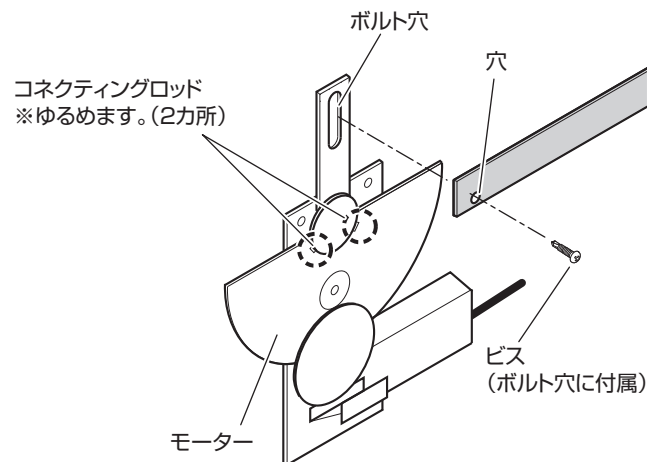
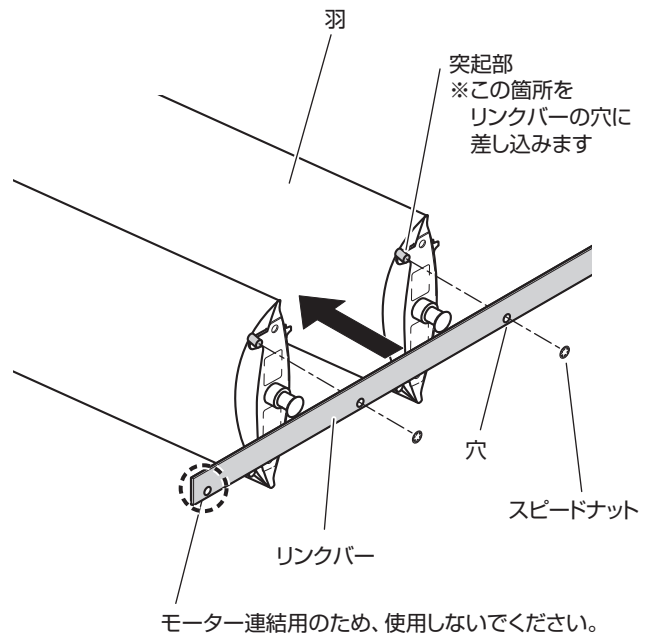
⓫ 羽とリンクバーを接続します

①**モーター**側の**羽**先端部の突起を、❷で切断した**リンクバー**の穴に差し込み、**スピードナット**で固定します。

※**リンクバー**同士の接続には2穴以上のオーバーラップが必要です。

※必ず、**羽**が同じ方向になっていることを確認してください。

②**モーター**のコネクティングロッドをゆるめます。

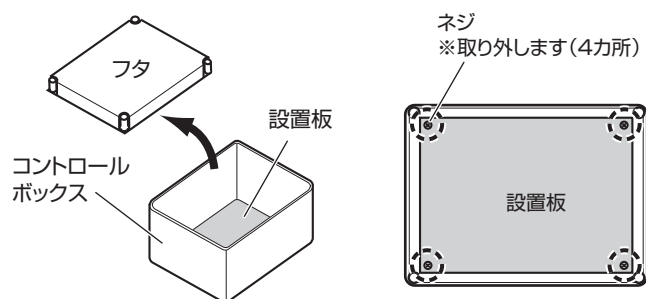
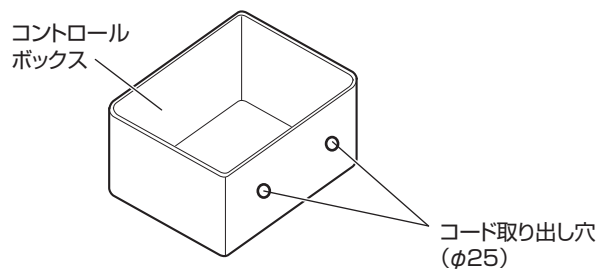
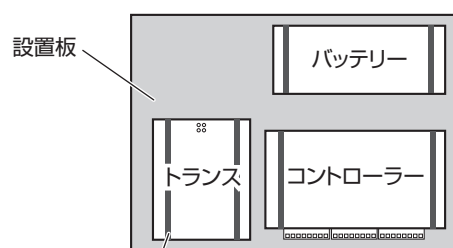
③**モーター**上部のボルト穴と、**リンクバー**（モーター側）の穴を合わせ、ビス（モーター上部のボルト穴に付属）、ワッシャー、ナットで固定します。

④**モーター**のコネクティングロッドをしっかり締めます。

組立・施工

⑫ コントロールボックスを設置します

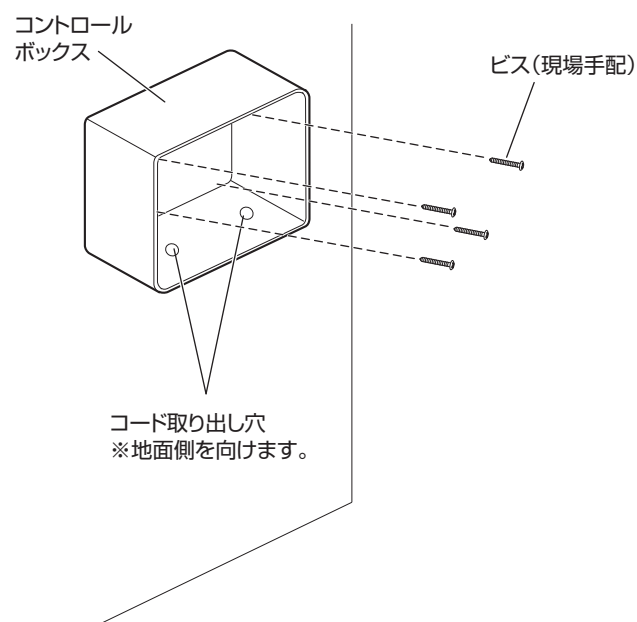
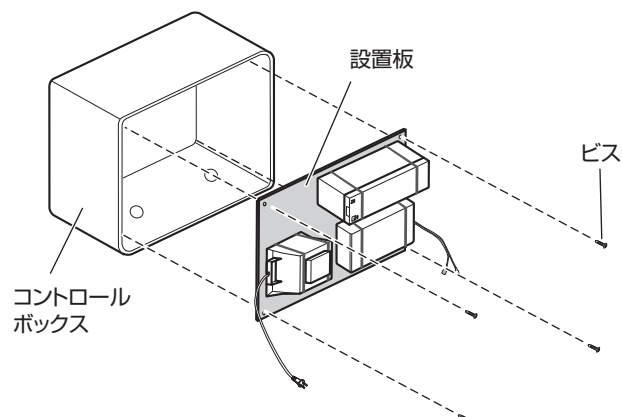
⚠ ご注意

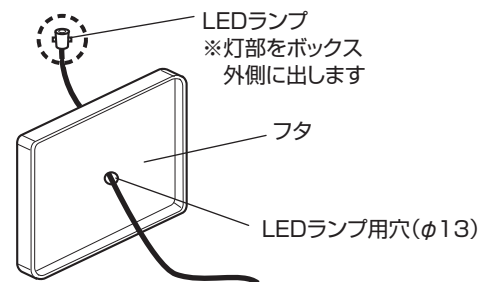
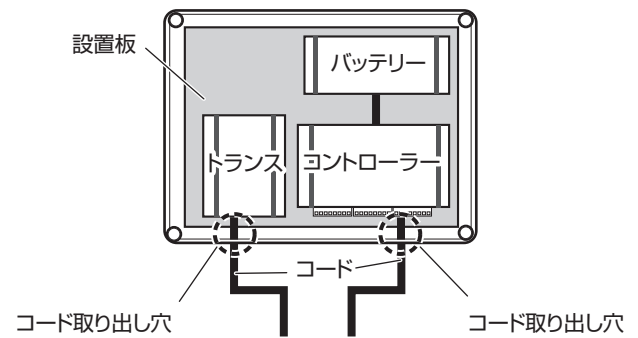
コントロールボックスは、操作時に視認できる範囲に取り付けてください。

①**コントロールボックス**のフタを開け、設置板を取り外します。

②**コントロールボックス**に、コード取り出し穴（φ25）をあけます。（計2カ所）

③設置板に**トランス**、**コントローラー**、**バッテリー**を取り付けます。このとき、設置板に穴を開け、インシュロックなどで固定します。

④**コントロールボックス**を設置場所に固定します。

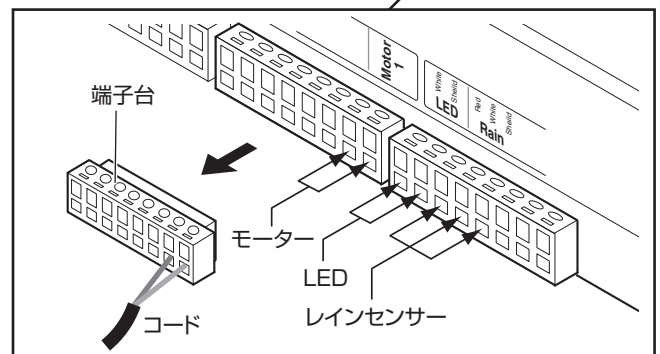
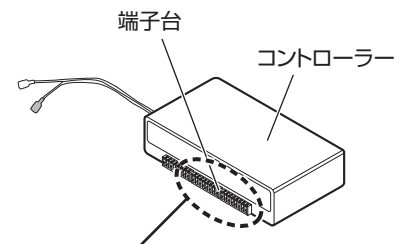
※必ず、コード取り出し穴は地面側を向けます。

※**コントロールボックス**は、本体柱の下部など、各コードが届く範囲内に取り付けます。

※**コントロールボックス**取付面の仕様に合わせて、ビス類（現場手配）で固定します。

⑤**コントロールボックス**内部に設置板を取り付けます。このとき、①で取り外したビスで固定してください。

組立・施工

⑥**コントローラー**と**バッテリー**を接続します。**コントローラー**、**トランス**のコードをコード取り出し穴から出します。
⑦**コントロールボックス**のフタの内側から、LEDランプ用穴（φ13）をあけます。**LEDランプ**のコードをLEDランプ用穴に通します。

⓭ コントローラーに各コードを接続します

①**コントローラー**の端子台を外し、接続位置を確認しながら、線を取り付けます。合わせて、**モーター**、**レインセンサー** 、**LEDランプ**のコードを**コントローラー**に接続します。【図Ⓜ】
②それぞれ正しく繋がっているか確認します。
③**コントロールボックス**のフタを閉めます。

図Ⓜ

⓮ 電源を入れ、動作確認をします

電源を入れます。自動的に**羽**が動き、開閉の一連の動作を行った後、閉じた状態で止まります（初期設定）。

⚠ ご注意

以下の点をチェックし、正常に作動しているか確認してください。
○**羽**がスムーズに動いているか?
○**羽**が何かに当たっていないか?
○**羽**の突起の切断はできているか?

⓯ 縦樋を取り付けます

樋パイプ、**ドレンセット**を組み立て、**柱**に縦樋を取り付けます。

⓰ 基礎に打設します

柱の垂直を確認後、仮押さえをした状態で基礎にモルタルを流し込み固定します。

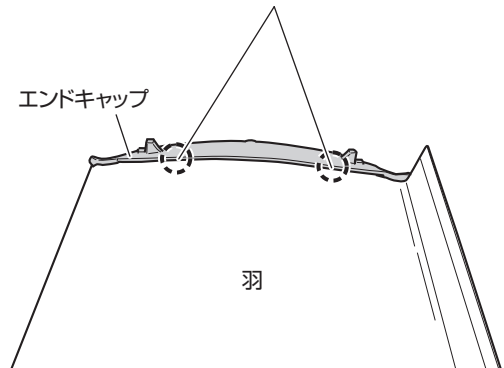
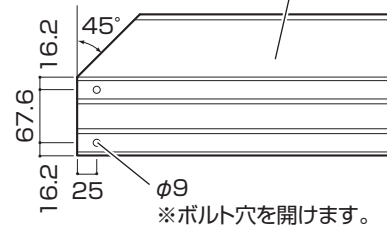
組立・施工

羽の切り詰めについて

①**羽**のエンドキャップ(取付済)を外します。
②**羽**を切断します。

【切断寸法について】
羽寸法(エンドキャップをのぞく部分)ー切り詰め寸法

寸法例
羽(エンドキャップ含む) 2700mm→2500mmに切り詰め
羽寸法2622mmー切り詰め寸法200mm=2422mm

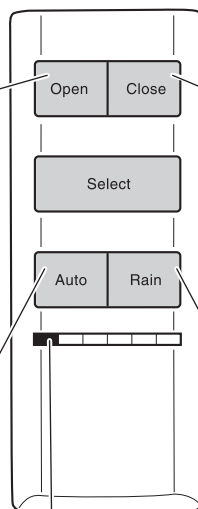
③**ルーバー用キャップ**(別売)を取り付けます。

梁 出幅用の切り詰めについて

※**羽**を切り詰めた場合、**梁 出幅用**も切断してください。
梁 出幅用は梁 本体と樋部のいずれも切断します。
樋部の両端は45°にカットします。

リモコンの使用方法

OPEN
羽を開きます。ボタンを押している間のみ動きます。

AUTO
●1台のコントローラーで、複数のモーターを切り替えることができます。
●羽の向きをそろえることができます。
①希望の向きに**OPEN**で角度調整。
②**AUTO**を3秒以上押す。羽が閉じた後、再び動き、羽の向きがそろう。
③開閉は**OPEN**、**CLOSE**で行う。
※モーターが複数ある場合に限ります。
1台のときは、作動しません。

通常は、左端が点灯するように使用してください。

CLOSE
羽を閉じます。ボタンを押している間のみ動きます。

RAIN
レインセンサーが有効になります。
①**RAIN**を押す。通常の操作が1時間可能。
②1時間後にLEDが点灯し、センサーが有効になる。

LED ON：センサーが作動している
LED OFF：センサーが作動していない
LED 点滅：センサーが湿っている

③センサー作動時に羽を操作するときは、**RAIN**を押す。

故障かな?と思ったら

下記の対処法で不具合が解決しない場合は、
施工店または下記の【お客様サービスセンター】までご相談ください。

屋根が開閉しない	**主電源が入っているか確認してください**
リモコンが正確に作動しない	**バッテリーを交換してください〈バッテリー型番：LRV08〉** ●リモコンのバッテリー寿命は2～3年です。バッテリー寿命が近づくと、リモコンのボタンを押しても、LEDランプが点灯しなくなります。 ●コントローラーのLEDランプが点灯していても、屋根の開閉を行うための十分なバッテリー容量が不足している場合があります。お問い合わせください。
赤色LEDが時々点滅する	**レインセンサーパッドを乾燥させてください** レインセンサーパッドが雨等の水分で濡れています。十分に乾燥させると、点滅がストップします。また、この機能により、レインセンサーパッドが正常に雨を感知しているか確認することができます。
赤色LEDが断続的に点滅する 不可解な音がする	**コントローラーが故障している可能性があります** **お問い合わせください**
雨天時、屋根が閉まらない	**レインセンサーが正しく設置または作動しているか確認してください** ●屋根に正しく設置されているか確認してください。 ●レインセンサーパッドが樹木等に覆われていると正しく機能しません。 ●レインセンサーパッドが汚れている場合は、汚れを拭きとってください。 ※以上を確認した後、レインセンサーパッドを軽く押し、屋根が閉まるか確認してください。

お客様サービスセンター 通話料無料 0120-51-4128 受付時間/月～金 AM9:00～PM5:00(祝日は除く)
株式会社タカショー 本社／〒642-0017 和歌山県海南市南赤坂20-1 TEL. 073-482-4128(代) FAX. 073-486-2560(代)